

2013年度（第9回）精密工学会賞受賞業績の紹介

堤 正 臣

堤正臣氏は、1976年3月に東京工業大学大学院理工学研究科博士課程を単位修得満期退学後、同年4月に同大学工学部助手、1985年7月に助教授に就任した。1986年4月に東京農工大学工学部助教授に転任し、1988年4月に同教授に就任した。

同氏は、教育者として多くの博士の学位授与者を輩出し、工作機械関連分野の教育者・研究者の育成に尽力した。また、指導学生の成果は、国際会議、学会、財団等から、論文賞、奨励賞、最優秀ポスター賞など多くの賞を受賞している。

また、研究者として工作機械の精度試験方法の標準化に関する研究に積極的に取り組み、特に、多軸工作機械の性能評価に関して独創的で実用的な方法を提案し、ISO検査規格として採用されている。この成果に対して、精密工学会論文賞、精密工学会沼田記念論文賞、ファナックFAロボット財団論文賞、工作機械技術振興財団論文賞など多くの賞を受賞した。さらに、工作機械・機器に関する標準化活動に対する功績に対して、2002年に標準化功労経済産業大臣表彰を受賞した。

学協会活動としては、精密工学会、日本機械学会などで幅広く貢献し、精密工学会理事、日本機械学会理事を歴任し、2009年に精密工学会フェローとなっている。

以上のように、堤正臣氏が工作機械の性能評価・標準化に対して上げられた学術的功績ならびに産業界、学協会の発展に果たした貢献は極めて大である。



略 歴

- 1976年 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程単位取得満期退学
- 1985年 東京工業大学工学部助教授
- 1986年 東京農工大学工学部助教授
- 1988年 東京農工大学工学部教授
- 1995年 東京農工大学大学院生物システム応用科学研究科教授
- 2011年 東京農工大学大学院生物システム応用科学府長
- 2013年 東京農工大学、理事・副学長（現在に至る）
精密工学会フェロー（2009年度）